

技術開発全体計画

森林技術・支援センター

課題	コウヨウザンの成長速度と生育適地の把握及び下刈省略による初期保育技術の検討				開発期間	R4-R9	
開発箇所	岐阜県内の国有林3箇所	担当部署	森林技術支援センター	共同研究機関	森林総合研究所林木育種センター 岐阜県森林研究所	技術開発目標	3(1)
現状と問題点	齢級構造の高まりから主伐後の再生林の拡大が想定される中で、管内の主要植栽樹種であるスギ・ヒノキ以外の選択肢として早生樹に対する期待が高まっている。早生樹の暖温帯における生育データの検証については他局等でも取組はあるものの、温帯域における検証事例がほとんど無い実態にあることから、短期間で用材収入が可能なコウヨウザンの導入を模索する上で生育データの検証が必要である。						
開発目的 (数値目標)	スギと同程度の強度を有し比較的短期間で成長・収穫できるとされる「コウヨウザン」については岐阜県内では植栽事例のある標高400m程度未満の暖温帯域が生育に適するとされているが、高標高(500~1000m)の温帯域における成長適性について検証を行う。併せて再生林の低コストに向けた検証を行う。						
開発方法	国有林の再生林地において標高別にプロットを設定し、コウヨウザンとスギ(比較対象)を植栽して、生育具合から生育適地の限界点(標高及び北限)の把握を行う。また、下刈りの省略区(隔年)を設定し、早生樹の初期保育費用のコスト削減の可能性について検証を行う。						
年度別計画 及び経費	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	①調査プロットの設定・植栽 標高別(500m・750m・1000m)にコウヨウザンとスギ 下刈有り区・無し区の各4プロットで計12プロット (1プロット0.04ha 計0.48ha) 各100本 計1200本(コウヨウザン・スギ 各600本)						
	②活着状況・成長調査(植栽後) ③雑草木競合調査(夏期) ④下刈実施(有り区のみ 夏期 請負) ⑤成長調査(秋期)			(中間報告)			⑥データ分析・報告
技術開発委員会における意見							

- (注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入すること。
 2 「技術開発目標」欄には、「国有林野事業における技術開発基本目標(林野庁長官通達)」の3(1)~(3)のうち該当する目標の番号を記入すること。
 3 「現状と問題点」欄には、他の機関が行っている技術開発との比較等も含めて記入すること。
 4 「開発目的(数値目標)」欄には、開発目的及びコスト削減等について民間事業者が取り入れているコスト等と比較し、できる限り数値を記入すること。
 5 「開発方法」欄には、実施に当たっての取組方法等を記入すること。
 6 「年度別計画及び経費」欄の経費欄には、課題に係る経費を記入するとともに、任意の様式で積算根拠を添付すること。
 7 課題設定に当たって引用した参考文献、数値目標を設定した理由及び積算根拠等の参考資料を添付すること。